

音楽アーティスト科 ヴォーカルコース 受講科目一覧 1年次

ヴォーカル総合専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習 I（前期）	34	2	1
実習	分野別実習 I（後期）	34	2	1
講義	業界知識 I	72	2	4
演習	共同演習 I	68	2	4
講義	音楽理論/調音 I	68	2	4
講義	音楽史 I	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術 I	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術 I	68	2	2
実習	演奏/ダンス分野別基礎 I	68	2	2
実習	歌唱/演奏実技 I	68	2	2
実習	サウンドアナライズ I	68	2	2
演習	アンサンブル基礎 I	68	2	4
演習	アンサンブル応用 I	68	2	4
演習	アンサンブル発展 I	68	2	4
合計		888	26	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンド I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要	音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。				
到達目標	<p>前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界 の仕事内容について学びます。</p> <p>後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～17回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 18～20回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 21～24回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRAC の問題点 JASRAC の功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 25～27回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作権隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 28～30回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 31～34回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルグループ I		授業形態 / 必選	演習	必修
	学則別表上表記	共同演習 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要	多くの難易度の高い楽曲(GOSPEL・ミュージカル楽曲・POPS等)を通し、心の解放・ハーモニーへの理解、発声や歌唱法を学ぶ。時にはリードボーカルのオーディションを行い、生徒同士で競争することによる技術向上を目的とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大人数の中で歌うために必要な知識や技術の習得。ハーモニー(ハモリ)を作ることの技術習得。 ・グループの一員としてステージに立ち、時にはchoirとして、時にはリードボーカルとしての歌唱法や立ち振る舞い、パフォーマンスを学ぶ。 ・ハモることへの不安がなくなる。 ・心を解放させ身体全体を使ってステージパフォーマンスができる。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	パート分け(女子2パート、男子2パート) 1曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【前期】 4～7回目	2曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定 1曲目とともにLIVE WEEKに向けてパフォーマンス込みで練習。
【前期】 8～10回目	3曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定 1曲目とともにLIVE WEEKに向けてパフォーマンス込みで練習。
【前期】 11～13回目	4曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【前期】 14～17回目	前期まとめ (1～4曲目の復習) ■前期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 21～24回目	6曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 25～27回目	7曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 28～30回目	8曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 31～34回目	過去にやった曲の中からLIVE WEEKに向けて選曲、復習、パフォーマンス込みで練習 ■後期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	グループボーカルを経験することにより、ハーモニーに対する不安感を拭えます。また、普段は聴かないようなGOSPEL等を聴くことにより、リズム感や発声法を学ぶこともでき、大人数で声を出すことにより、心の解放や私たちの声を持つパワーを直接感じることもできます。この授業を通して様々なジャンルに触れ、多くのことを学びきっかけにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&イヤートレーニング ピッチワークアウト I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳の時にアニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーリリース。 その後ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元生徒はDAIGO、太田在etc)の指導を行う。				
授業概要	音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛える「聴音」の授業です。 理論では正確に楽譜を読み書きする能力を得ること、作曲の為の基礎知識を養うこと、音楽用語の意味を学びます。聴音では音程やリズムを耳で聞き取り、演奏や譜面におこすことができる能力を得ます。 また、様々なジャンルの音楽の基礎知識を学ぶことにより、音楽人に必要な力も養います。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の読み書きができるようになります。 ・楽器を使わずに、耳だけで音程(音の高低)やリズムを聴き取れるようになります。 ・音楽用語を使用し、他楽器(バンドメンバー)とのコミュニケーションを可能にします。 ・インターバル、スケール、ハーモニー、コード、リズム、におけるベーシックが把握できます。 ・曲の構成を理解して、メロディとコードの関係を深く理解できます。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ発声、音符と休符、リズムのトレーニング、メジャースケール。
【前期】 4～7回目	インターバルの紹介、読譜。
【前期】 8～10回目	テンポとリズム、ブレスのメカニズム、音域チェック、FメジャーキーとGメジャーキー。
【前期】 11～13回目	ハモリ、123メロディー発声、タイと付点子音。
【前期】 14～17回目	歌と発声、5度圏、聴き取り(イヤトレ)、ハモリ練習。 ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	1234メロディー発声、16分音符リズムトレーニング、ロングブレス。
【後期】 21～24回目	ピッチトレーニング、数字インターバル、ハモリ練習。
【後期】 25～27回目	12345メロディー発声、リズムチェック、サイエンステスト。
【後期】 28～30回目	ピッチトレーニング復習、インターバル、ハモリチェック。
【後期】 31～34回目	ヒット曲のメロディアナライズ。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理論をマスターして「なぜカッコ良いのか」「どうしてグッと来るのか」といったことが分かってくると、「気持ちをこめる」だけでなく「気持ちを伝える」表現豊かな音楽ができるようになるでしょう。 また、なんといってもミュージシャンは耳が命です。音楽からいろんなアイデアをキャッチできるようになりましょう。 他にも、理論や聴音を学ぶことは、今後の歌唱・演奏や作曲の手助けになるにもなります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムヴォーカルの歴史と体系 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴォーカルの為のリズムトレーニング、身体づくり、リズムの歴史を学ぶ。(リズム史=POPS音楽史) ・ヴォーカルに活かすためのリズム発声～アドリブスキットまで。 					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・漠然と歌のメロディーを歌えるのではなく、頭と体でリズムを理解し、コントロールできるテクニックを身に着ける。 ・ジャンルごとのリズムの特徴を学び、歌いまわしのクオリティーを上げる。 ・体全体でリズムをキープしながら、瞬時にいかなるヴォーカルアプローチも出来るようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	リズムの種類、特徴を頭で理解し、体で表現する。「4. 8. 16beatを 足・腰・背骨・首でキープする。同時に声も乗せる」
【前期】 4～7回目	POPS音楽の歴史(リズム的観点)① 世界のPOPS音楽の流れがどのようにしてJ-POPにつながっているかを理解する。歴史的背景/ジャンル理解/ジャンルの特徴を学ぶ
【前期】 8～10回目	体幹強化① ヨガなどを使って体幹を鍛え、体に意識を向ける。骨のしくみ/筋肉の相互作用/ヴォーカリストの姿勢を学ぶ。
【前期】 11～13回目	スキット準備編(リズムを声で表す・初級 / コール&レスポンスについて) スキットとは何か?/リズム表現しやすい言葉/リズムのフィールを感じ取る/
【前期】 14～17回目	前期の復習・確認 ■前期試験:筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	シャッフル・スウィングを頭で理解し、体で表現する。 体でキープしながら、声でメロディを歌う
【後期】 21～24回目	POPS音楽の歴史(リズム的観点)② 世界のPOPS音楽の流れがどのようにしてJ-POPにつながっているかを理解する。歴史的背景/ジャンル理解/ジャンルの特徴を学ぶ
【後期】 25～27回目	体幹強化② ヨガなどを使って体幹を鍛え、体に意識を向ける。骨のしくみ/筋肉の相互作用/ヴォーカリストの姿勢を学ぶ。
【後期】 28～30回目	スキット本番(好きなリズムパターンを作りメロディーを乗せる/コール&レスポンス実践)
【後期】 31～34回目	1年間トータル復習・確認 ■後期試験:筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音の高低(音階)/声を出すタイミング(リズム)で成り立つ歌。半分をしめるリズムについて、ヴォーカリストの観点で大切な要素を学びましょう。じっくり話を聞いて噛みしめる抗議～笑い声をはじける実技～うめき声の出る体幹強化(笑)色んな側面は、すべてプロのヴォーカリストへの道につながっています。自分の中で様々な場面に当てはめて、授業の外でも理解を深めてください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルテクニック I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡を中心にヴォイストレーナーとして、音楽学校や個人レッスン等で幅広く活動中。 ハリウッド式の発声法・トレーニングを採用し、多くのヴォーカリストへ歌唱力・表現力向上の為の技術指導を行う。				
授業概要					
発声のメカニズムを理解し、歌唱に必要なテクニックにつなげる。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・チェストボイス、ヘッドボイスなど声色それぞれの基礎発声を身につける。 ・発声のメカニズムを理解した上での基礎発声練習を積み重ね、声域を広げる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	教科書使用(ボイス理論1～4)チェスト開発
【前期】 4～7回目	教科書使用(ボイス理論5～8)チェスト開発
【前期】 8～10回目	教科書使用(ボイス理論9～12)ヘッド開発
【前期】 11～13回目	教科書使用(ボイス理論13以降)ヘッド開発
【前期】 14～17回目	教科書使用(ボイス理論まとめ) ■前期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 18～20回目	チェストとヘッドのバランス/共鳴作り
【後期】 21～24回目	チェストとヘッドのバランス/共鳴作り
【後期】 25～27回目	ミドルボイス開発
【後期】 28～30回目	ミドルボイス開発
【後期】 31～34回目	基礎発声練習(ミドルボイスの開発・定着) ■後期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	テクニックだけが大事なものではありませんが、そのテクニックへの理解を深めることにより自由な表現への足がかりとなります。思考のパターンをプロ仕様へと変えていきましょう。
備考	使用教科書「ヴォーカルテクニック」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニング I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・Back Number、中村 正人(DREAMS COME TRUE)等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・自身もシンガーソングライターとして九州各地でライブ活動を行う。 				
授業概要					
<p>ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。 ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。 また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なスケールを用い、チェストヴォイス～ミックスヴォイス(ミドル)～ヘッドヴォイスの声区融合を身に付けます。 ・4分音符、8分音符、1拍3連、16分音符のリズムを体で理解し、歌唱へ反映させていく技術を習得します。 ・様々な歌唱テクニックを習得し、歌唱へ反映させていく力を身に付けます。 ・歌唱するのに必要なリズム感を養い、自身の持つ声をより向上させ、様々な共鳴・声色を習得します。 ・正しい音を耳(脳)へと伝え、それを表現するための方法を身につけます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【前期】 4～7回目	低音の響き①～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き①～声帯～ / 高音の響き①～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 8～10回目	低音の響き②～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き②～声帯～ / 高音の響き②～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 11～13回目	総合的反復練習 / 課題曲① (発声に意識して歌唱してみる)
【前期】 14～17回目	総合的反復練習 / 課題曲② (発声に意識して歌唱してみる) ■前期試験:筆記と発声の試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 18～20回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【後期】 21～24回目	低音の響き③～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き③～声帯～ / 高音の響き③～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 25～27回目	低音の響き④～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き④～声帯～ / 高音の響き④～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 28～30回目	総合的反復練習 / 課題曲③ (発声に意識して歌唱してみる)
【後期】 31～34回目	総合的反復練習 / 課題曲④ (発声に意識して歌唱してみる) ■後期試験:筆記と発声の試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くしていくために欠かせません。チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高く歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌えるようになります。また、裏声や低音域をしっかり鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかり把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	アコースティックギター		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	幼少の頃から本格的にクラシックピアノを20年間学び、コンクール等で多数受賞。 現在は自身で作詞作曲をジャンル問わず行いながら、鍵盤などで多くの演奏サポートや制作に携わる。 これまでに発表した作詞・作曲作品、またアレンジした楽曲は80曲以上ある。				
授業概要	アコースティックギターの奏法を、実技だけにとどまらず、頭でしっかり理解できるような授業を目指します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲においても重要な役割を果たす アコースティックギターの様々な可能性を体験し、今後の音楽活動に活かせるようにする。 ・弾き語りができるようになる。ジャンルによって奏法が弾き分けられるようになる。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	アコースティックギターに実際に触れ、慣れ親しむ。各部名称の把握、チューニングの方法など。8ビートの基本的なストロークの習得。オモテとウラに対応するストロークの理解。
【前期】 4～7回目	16ビートの基本的なストロークの習得。シャッフルリズムのストロークの習得
【前期】 8～10回目	ピックを使ったアルペジオを理解し習得。指弾きでのアルペジオを理解し習得。実際によく使われる伴奏パターンの習得。
【前期】 11～13回目	スリーフィンガー奏法の理解と習得。親指で低音リズムをキープすることを基本に展開し最終的な習得を目指す。
【前期】 14～17回目	前期のまとめと 奏法のおさらい。 ■前期試験：課題曲の演奏により「コードストローク/アルペジオ/スリーフィンガー/ボサノバ奏法/SSW系奏法/ブルースギター奏法/ラグタイムギター奏法」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	フィンガーピッキング ジャンル別 ボサノバ奏法を考察、習得。
【後期】 21～24回目	フィンガーピッキング ジャンル別 シンガーソングライターがよく用いるパターンを考察、習得。
【後期】 25～27回目	フィンガーピッキング ジャンル別 ブルースギター奏法を考察、習得。
【後期】 28～30回目	フィンガーピッキング ジャンル別 ラグタイムギター奏法を考察、習得。
【後期】 31～34回目	後期のまとめと 奏法のおさらい。 ■後期試験：課題曲の演奏により「コードストローク/アルペジオ/スリーフィンガー/ボサノバ奏法/SSW系奏法/ブルースギター奏法/ラグタイムギター奏法」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「コードストローク/アルペジオ/スリーフィンガー/ボサノバ奏法/SSW系奏法/ブルースギター奏法/ラグタイムギター奏法」の7項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	いつの時代も、音楽シーンにおいてギター弾き語りは身近なパフォーマンスとして親しまれてきました。照明や音響の過度な演出に頼らずとも演者の世界観を聴衆に届けることができる、アコースティックギター弾き語りに役立つ色々な奏法の魅力を体験してください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	キーボード		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	幼少の頃から本格的にクラシックピアノを20年間学び、コンクール等で多数受賞。 現在は自身で作詞作曲をジャンル問わず行いながら、鍵盤などで多くの演奏サポートや制作に携わる。 これまでに発表した作詞・作曲作品、またアレンジした楽曲は80曲以上ある。				
授業概要	コード(和音)について理論的に学び、様々なコードやリズムパターンを覚える。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードを触ることに慣れ、コードネームだけで鍵盤で伴奏できるようになる。 ・初見でコード譜を見て、一度曲を聞いたなら弾けるようになる。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	鍵盤の位置を覚えてドレミを弾いてみよう(運指) 【理論】スケール (Major, minor) コードについて (Major, minor) 【理論】コードの構成を覚えたら、弾いてみよう (C G F Am) 【Let it be】
【前期】 4～7回目	【実践】左手を使ってみよう 猫踏んじやった 【理論】曲を弾いてみよう (C G F Am) 【Let it be】
【前期】 8～10回目	【実践】曲を弾いてみよう (C G Em Am D B Bm) 【上を向いて歩こう】 【理論】おしゃれコードについて (トライアド、7th、sus4など) 【実践】上を向いて歩こう Bメロ込み
【前期】 11～13回目	【課題曲】実際に課題曲を用いて様々なテクニックを学ぶ
【前期】 14～17回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見ながら弾いてみよう ■前期試験:課題曲の演奏により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見ながら弾いてみよう
【後期】 21～24回目	【課題曲】コード譜をもとにサイズ譜を作ってみよう(小節の数え方、繰り返し記号の書き方など、基本的な採譜に必要な知識の習得)
【後期】 25～27回目	【自由曲】好きな曲を、サイズ譜を作成しメロディーラインとともに弾いてみよう
【後期】 28～30回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見てメロディーラインとともに弾いてみよう
【後期】 31～34回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見てメロディーラインとともに弾いてみよう ■後期試験:課題曲の演奏により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	キーボードを演奏するには、まずキーの概念や和音の構成など簡単な音楽理論を理解することが必要です。また、左手ではベースラインでリズム感を出し、右手で和音を出していきます。最初は左右違う動きをすることやコードを覚え瞬時に和音を抑えるのに手こずるかもしれませんが、いつのコードだけで弾ける簡単な曲から始めていきますので安心してください。コード譜があれば伴奏できる・弾き語りができるレベルまで頑張りましょう。
備考	参考書「ピアノコード表」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	コーラスライン I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	これまでCMへのオリジナルソングの提供、ラジオ、ドキュメンタリー番組等に出演。その後渡米し現地ミュージシャンとセッションを重ねる。福岡、東京にて音楽イベントに多数出演。動画制作への楽曲提供なども行う。ピアノでの受賞経験も多数。メジャーアーティストへのレッスン提供や、後進の育成にも励みデビューした生徒も多数。				
授業概要	この授業では学生達が声楽技術を身につけハーモニーを理解し、コーラスワークに対する技術・知識の習得を行います。複数人でメロディーを歌唱する際の耳と発声を磨き、アンサンブル歌唱のスキルを向上させます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーモニーの概念を理解し、他歌手との調和を築く為の技術を習得。 ・音を聴き分ける能力を養い、和音や度数を理解してハーモニーを歌唱出来るようになる。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ユニゾン・スケール・3度ハモリからのコードトレーニング(M・m・sus4) 課題曲①邦楽パート音入れ
【前期】 4～7回目	ユニゾン・スケール・5度からのコードトレーニング(aug・dim・add9)・楽曲Keyチェンジ対応 課題曲①
【前期】 8～10回目	オクターブ発声・楽曲分析(小節・ブレス・アクセント・ポルタメント)・コードトレーニング(△7・7) 課題曲②洋楽パート音入れ
【前期】 11～13回目	母音・子音歌唱・ペア練習 トランスポーズ対応トレーニング・8ビート・16ビート 課題曲②
【前期】 14～17回目	前期テスト対策。 ■前期試験:発声に関する用語、仕組み、ハーモニー、リズムの到達度の確認。
【後期】 18～20回目	イントネーション・コード進行の理解～アドリブ・フェイク練習 課題曲③パート音入れ
【後期】 21～24回目	シャッフル・イーブン・グループ チェスト・ミドル・ヘッドヴォイス確認 課題曲③
【後期】 25～27回目	楽曲の1フレーズを3拍子・4拍子で歌唱・スケール・コードトレーニング 課題曲④発音
【後期】 28～30回目	それぞれの表現・抑揚と発音 歌いまわしと音の重なり 課題曲④
【後期】 31～34回目	通年のまとめ。発声、即興、ハーモニー、リズムの到達度の確認。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声に関する用語、仕組み/発声/リズム」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ソロパフォーマンスでは習得出来ないヴォーカルグループで作り出すハーモニーを体感していきます。同時にGt.Key.Baで演奏するコードを声で体感していきます。リードボーカルでの役割と支えになるコーラスの役割を経験し、グループでの表現やパフォーマンスを学んでいきましょう！
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習 I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズ I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。 V3新人オーディション20thファイナリストに選出、そのポテンシャルの高さを披露。 2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出さる。 2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
授業概要					
バラードやアップテンポといったテーマに合わせて自分で選んだ曲を歌い、講師や他生徒からの感想やアドバイスをもらいながら磨いていく授業です。 自ら選んだ楽曲を歌いこみながらテクニックをきめ細やかに、また感情表現をより深めながらシンガーとしての自らをワークショップスタイルの中で確立していきます。					
到達目標					
自分が歌うだけでなく、他者の歌唱を聞いて、見て、【音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力(表情や身振り手振り、パフォーマンス)]の4つの観点から観察、考察します。 【歌う】【聞く】【考える】のサイクルで授業を進めます。他者の歌を客観的に分析することで自身の歌唱とも向き合い、技術を磨いていきます。また、同じ曲を数週間歌い続けることにより楽曲への理解を深め、より表現力豊かな歌唱を目指します。 歌唱力だけを磨くだけでなく、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」ステージを意識した歌唱ができるようになる。自身の歌唱の魅力に気づき、活かすことができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【自由曲①(バラード)]ロングトーンなど、歌唱の魅力が全面に出るバラードを歌います。
【前期】 4～7回目	【自由曲②(アップテンポ)]リズム感を意識した歌唱を習得します。
【前期】 8～10回目	【自由曲③(完全自由曲)]ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【前期】 11～13回目	【自由曲④(完全自由曲)]ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【前期】 14～17回目	【自由曲①～④より選択]これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことにより楽曲、歌唱への理解を深め、より自分の魅力を引き出す歌唱を目指します。 ■前期試験:課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【自由曲⑤(洋楽)]言語の壁はもろろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 21～24回目	【自由曲⑥(楽器とのデュオ)]ギターもしくはピアノ単体の演奏とともに歌唱します。ドラムやベースなどが入ったカラオケ音源の華やかな演奏と対極な、歌と楽器のみのデュオ演奏の歌唱アプローチ法を考察します。
【後期】 25～27回目	【自由曲⑦(完全自由曲)]ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 28～30回目	【自由曲⑧(完全自由曲)]ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 31～34回目	【自由曲①～⑧より選択]これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことにより楽曲、歌唱への理解を深め、より自分の魅力を引き出す歌唱を目指します。 ■後期試験:課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ボーカリストとして様々なジャンルが歌えるようになることは必須です。講師や他生徒からのフィードバックを聞きながら自分の魅力や武器を見つけ、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」「職業ミュージシャンとして即戦力になる」といったより実践的な歌唱を目指します。また、他者と歌を客観的に分析することにより、自分の歌唱を磨くためのヒントが見つかることも多くあります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。 V3新人オーディション20thファイナリストに選出、そのボンテンシャルの高さを披露。 2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出さる。 2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
授業概要					
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルを学ぶ。 ・曲の理解、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方など ・楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分け、音楽の楽しみ方を学び、 ・バンドとして一つの音を奏で、パフォーマンスも含めアンサンブルにつなげる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 4～7回目	2曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 8～10回目	3曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間
【前期】 14～17回目	4曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 21～24回目	6曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 25～27回目	7曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 28～30回目	8曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 後期4曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【後期】 31～34回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを上達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人とが奏でる音楽・アンサンブルに繋がっていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。 V3新人オーディション20thファイナリストに選出、そのポテンシャルの高さを披露。 2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出さる。 2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
授業概要	課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。 ※アンサンブル基礎Ⅰの二コマ目として実施				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルを学ぶ。 ・曲の理解、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方など ・楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分け、音楽の楽しみ方を学び、 ・バンドとして一つの音を奏で、パフォーマンスも含めアンサンブルにつなげる。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 4～7回目	2曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 8～10回目	3曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間
【前期】 14～17回目	4曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 21～24回目	6曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 25～27回目	7曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 28～30回目	8曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 後期4曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【後期】 31～34回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを到達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人が奏でる音楽・アンサンブルに繋がっていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルスタイル I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル発展 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要					
様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの歌唱へ取り込んでいきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリズム感、グルーブ感を習得し、歌唱へ反映させていく力を身に付けます。 ・歌唱するのに必要なリズム感を養い、自身の持つ声をより向上させ、様々な共鳴・声色を習得します。 ・多様なジャンルのルーツミュージックを理解し、ノリやアクセントの付け方の幅を広げます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	課題曲①【ROCK】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 4～7回目	課題曲②【R&B】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 8～10回目	課題曲③【レゲイ】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 11～13回目	課題曲④【ミクスチャー】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 14～17回目	トータルチェック(これまでの課題曲で培った「発声・リズム・表現力・ポイント」を確認する) ■前期試験:課題曲の歌唱により「音程/リズム/ダイナミクス/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	課題曲⑤【ブルース】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 21～24回目	課題曲⑥【FUNK】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 25～27回目	課題曲⑦【ソウル】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 28～30回目	課題曲⑧【JAZZ】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 31～34回目	トータルチェック(これまでの課題曲で培った「リズム・グルーブ・表現力・ポイント」を確認する) ■後期試験:課題曲の歌唱により「リズム/ダイナミクス/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/ダイナミクス/表現力」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ボーカリストとして様々なジャンルが歌えるようになることは必須です。講師や他生徒からのフィードバックを聞きながら自分の魅力や武器を見つけ、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」「職業ミュージシャンとして即戦力になる」といったより実践的な歌唱を目指します。また、他者と歌を客観的に分析することにより、自分の歌唱を磨くためのヒントが見つかることも多くあります。
備考	

音楽アーティスト科 ヴォーカルコース 受講科目一覧 1年次

ネットシンガー専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習 I（前期）	34	2	1
実習	分野別実習 I（後期）	34	2	1
講義	業界知識 I	72	2	4
演習	共同演習 I	68	2	4
講義	音楽理論/調音 I	68	2	4
講義	音楽史 I	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術 I	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術 I	68	2	2
実習	DAW・DTM基礎 I	68	2	2
実習	歌唱/演奏実技 I	68	2	2
実習	サウンドアナライズ I	68	2	2
演習	アンサンブル基礎 I	68	2	4
演習	アンサンブル応用 I	68	2	4
演習	アンサンブル発展 I	68	2	4
合計		888	26	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンド I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴					
授業概要	音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。				
到達目標	<p>前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界 の仕事内容について学びます。</p> <p>後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～17回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 18～20回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 21～24回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRAC の問題点 JASRAC の功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 25～27回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 28～30回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 31～34回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	動画配信ベーシック		授業形態 / 必選	演習	必修
	学則別表上表記	共同演習 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカルコース(ネットシンガー専攻)				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<p>絵画教室講師、3DCG映像制作会社勤務を経て、現在フリーランスのイラストレーターとして活動中。 大手食品メーカー店内イラストや冊子挿絵、様々なパンフレットデザイン等、幅広く制作。 作家として、ライブペイントや個展・グループ展も開催。その他、デザイン系専門学校講師兼任。</p>				
授業概要	<p>インターネット上で自らのパフォーマンス動画を配信していきます。音源や配信環境を整え、演奏や歌唱の中身を高め、動画をアップロードし、より再生回数を増加させる工夫を探ります。</p>				
到達目標	<p>世界の新興大企業のほとんどが配信サービスを持っており、ゲーム実況、雑談、カラオケなど多岐にわたる。作業配信などニッチな配信も人気な中で、このネット配信技術の授業ではデバイスやパソコンを使って演奏してみた、歌ってみたなど、また作曲配信を行えるようにする。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	インターネットライブ配信の現状/各配信サービスの現状
【前期】 4～7回目	インターネットライブ配信を活用したタレント事例
【前期】 8～10回目	ライブ配信で人気のコンテンツ/配信の音をよくするための機材選び
【前期】 11～13回目	配信の高音質化に必要なものオーディオインターフェース マイクロホン ヘッドホン、イヤホンについて
【前期】 14～17回目	<p>前期の復習・確認</p> <p>■前期試験:筆記試験にて「ネット配信の事例理解、配信機材理解」の到達度を確認する。</p>
【後期】 18～20回目	オーディオインターフェースとは？オーディオインターフェースの選び方。
【後期】 21～24回目	配信の音をよくするための機材選び
【後期】 25～27回目	パソコンを使った演奏してみたや作曲配信
【後期】 28～30回目	配信用パソコンについて 配信用ソフトについて
【後期】 31～34回目	<p>1年間トータル復習・確認</p> <p>■後期試験:筆記試験にて「配信技術の理解とコンテンツのセンス」を確認する。</p>
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	オンライン配信も含め学んでいきます。一緒に頑張ってください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&イヤートレーニング ピッチワークアウト I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳の時にアニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーリリース。 その後ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元生徒はDAIGO、太田在etc)の指導を行う。				
授業概要	音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛える「聴音」の授業です。 理論では正確に楽譜を読み書きする能力を得ること、作曲の為の基礎知識を養うこと、音楽用語の意味を学びます。聴音では音程やリズムを耳で聞き取り、演奏や譜面におこすことができる能力を得ます。 また、様々なジャンルの音楽の基礎知識を学ぶことにより、音楽人に必要な力も養います。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の読み書きができるようになります。 ・楽器を使わずに、耳だけで音程(音の高低)やリズムを聴き取れるようになります。 ・音楽用語を使用し、他楽器(バンドメンバー)とのコミュニケーションを可能にします。 ・インターバル、スケール、ハーモニー、コード、リズム、におけるベーシックが把握できます。 ・曲の構成を理解して、メロディとコードの関係を深く理解できます。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ発声、音符と休符、リズムのトレーニング、メジャースケール。
【前期】 4～7回目	インターバルの紹介、読譜。
【前期】 8～10回目	テンポとリズム、ブレスのメカニズム、音域チェック、FメジャーキーとGメジャーキー。
【前期】 11～13回目	ハモリ、123メロディー発声、タイと付点子音。
【前期】 14～17回目	歌と発声、5度圏、聴き取り(イヤトレ)、ハモリ練習。 ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	1234メロディー発声、16分音符リズムトレーニング、ロングブレス。
【後期】 21～24回目	ピッチトレーニング、数字インターバル、ハモリ練習。
【後期】 25～27回目	12345メロディー発声、リズムチェック、サイエンステスト。
【後期】 28～30回目	ピッチトレーニング復習、インターバル、ハモリチェック。
【後期】 31～34回目	ヒット曲のメロディアナライズ。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理論をマスターして「なぜカッコ良いのか」「どうしてグッと来るのか」といったことが分かってくると、「気持ちをこめる」だけでなく「気持ちを伝える」表現豊かな音楽ができるようになるでしょう。 また、なんといってもミュージシャンは耳が命です。音楽からいろんなアイデアをキャッチできるようになりましょう。 他にも、理論や聴音を学ぶことは、今後の歌唱・演奏や作曲の手助けになるにもなります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムヴォーカルの歴史と体系 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要	<p>・ヴォーカルの為のリズムトレーニング、身体づくり、リズムの歴史を学ぶ。(リズム史=POPS音楽史)</p> <p>・ヴォーカルに活かすためのリズム発声～アドリブスキットまで。</p>				
到達目標	<p>・漠然と歌のメロディーを歌えるのではなく、頭と体でリズムを理解し、コントロールできるテクニックを身に着ける。</p> <p>・ジャンルごとのリズムの特徴を学び、歌いまわしのクオリティーを上げる。</p> <p>・体全体でリズムをキープしながら、瞬時にいかなるヴォーカルアプローチも出来るようになる。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	リズムの種類、特徴を頭で理解し、体で表現する。「4. 8. 16beatを 足・腰・背骨・首でキープする。同時に声も乗せる」
【前期】 4～7回目	POPS音楽の歴史(リズム的観点)① 世界のPOPS音楽の流れがどのようにしてJ-POPにつながっているかを理解する。歴史的背景/ジャンル理解/ジャンルの特徴を学ぶ
【前期】 8～10回目	体幹強化① ヨガなどを使って体幹を鍛え、体に意識を向ける。骨のしくみ/筋肉の相互作用/ヴォーカリストの姿勢を学ぶ。
【前期】 11～13回目	スキット準備編(リズムを声で表す・初級 / コール&レスポンスについて) スキットとは何か?/リズム表現しやすい言葉/リズムのフィールを感じ取る/
【前期】 14～17回目	前期の復習・確認 ■前期試験:筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	シャッフル・スウィングを頭で理解し、体で表現する。 体でキープしながら、声でメロディを歌う
【後期】 21～24回目	POPS音楽の歴史(リズム的観点)② 世界のPOPS音楽の流れがどのようにしてJ-POPにつながっているかを理解する。歴史的背景/ジャンル理解/ジャンルの特徴を学ぶ
【後期】 25～27回目	体幹強化② ヨガなどを使って体幹を鍛え、体に意識を向ける。骨のしくみ/筋肉の相互作用/ヴォーカリストの姿勢を学ぶ。
【後期】 28～30回目	スキット本番(好きなリズムパターンを作りメロディーを乗せる/コール&レスポンス実践)
【後期】 31～34回目	1年間トータル復習・確認 ■後期試験:筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音の高低(音階)/声を出すタイミング(リズム)で成り立つ歌。半分をしめるリズムについて、ヴォーカリストの観点で大切な要素を学びましょう。じっくり話を聞いて噛みしめる抗議～笑い声をはじける実技～うめき声の出る体幹強化(笑)色んな側面は、すべてプロのヴォーカリストへの道につながっています。自分の中で様々な場面に当てはめて、授業の外でも理解を深めてください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルテクニック I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	福岡を中心にヴォイストレーナーとして、音楽学校や個人レッスン等で幅広く活動中。 ハリウッド式の発声法・トレーニングを採用し、多くのヴォーカリストへ歌唱力・表現力向上の為の技術指導を行う。				
授業概要					
発声のメカニズムを理解し、歌唱に必要なテクニックにつなげる。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・チェストボイス、ヘッドボイス、ミドルボイスなど声色それぞれの基礎発声ツールとして身につける。 ・発声のメカニズムを理解した上での基礎発声練習を積み重ね、声域を広げるとともに音量、音圧など自在にコントロールできるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	教科書使用(ボイス理論1～4)チェスト開発
【前期】 4～7回目	教科書使用(ボイス理論5～8)チェスト開発
【前期】 8～10回目	教科書使用(ボイス理論9～12)ヘッド開発
【前期】 11～13回目	教科書使用(ボイス理論13以降)ヘッド開発
【前期】 14～17回目	教科書使用(ボイス理論まとめ) ■前期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 18～20回目	チェストとヘッドのバランス/共鳴作り
【後期】 21～24回目	チェストとヘッドのバランス/共鳴作り
【後期】 25～27回目	ミドルボイス開発
【後期】 28～30回目	ミドルボイス開発
【後期】 31～34回目	基礎発声練習(ミドルボイスの開発・定着) ■後期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	テクニックだけが大事なものではありませんが、そのテクニックへの理解を深めることにより自由な表現への足がかりとなります。思考のパターンをプロ仕様へと変更していきましょう。
備考	使用教科書「ヴォーカルテクニック」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニング I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱 演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・Back Number、中村 正人(DREAMS COME TRUE)等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・自身もシンガーソングライターとして九州各地でライブ活動を行う。 				
授業概要					
<p>ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。 ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。 また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なスケールを用い、チェストヴォイス～ミックスヴォイス(ミドル)～ヘッドヴォイスの声区融合を身に付けます。 ・4分音符、8分音符、1拍3連、16分音符のリズムを体で理解し、歌唱へ反映させていく技術を習得します。 ・様々な歌唱テクニックを習得し、歌唱へ反映させていく力を身に付けます。 ・歌唱するのに必要なリズム感を養い、自身の持つ声をより向上させ、様々な共鳴・声色を習得します。 ・正しい音を耳(脳)へと伝え、それを表現するための方法を身につけます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【前期】 4～7回目	低音の響き①～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き①～声帯～ / 高音の響き①～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 8～10回目	低音の響き②～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き②～声帯～ / 高音の響き②～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 11～13回目	総合的反復練習 / 課題曲① (発声に意識して歌唱してみる)
【前期】 14～17回目	総合的反復練習 / 課題曲② (発声に意識して歌唱してみる) ■前期試験:筆記と発声の試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 18～20回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【後期】 21～24回目	低音の響き③～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き③～声帯～ / 高音の響き③～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 25～27回目	低音の響き④～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き④～声帯～ / 高音の響き④～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 28～30回目	総合的反復練習 / 課題曲③ (発声に意識して歌唱してみる)
【後期】 31～34回目	総合的反復練習 / 課題曲④ (発声に意識して歌唱してみる) ■後期試験:筆記と発声の試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くしていくために欠かせません。チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高く歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌えるようになります。また、裏声や低音域をしっかり鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかり把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW/ボーカロイド I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	DAW・DTM基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	幼少の頃から本格的にクラシックピアノを20年間学び、コンクール等で多数受賞。 現在は自身で作詞作曲をジャンル問わず行いながら、鍵盤などで多くの演奏サポートや制作に携わる。 これまでに発表した作詞・作曲作品、またアレンジした楽曲は80曲以上ある。				
授業概要					
作曲・編曲などDAW(Logic Pro)の基礎的な使い方を理解・習得します。 楽曲制作を行う手順を一から理解できる様にします。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲制作を行う上での基礎的なDAWの操作の習得。 ・ドラムパターンやコードの打ち込み、そしてサンプル音源の使い方などを覚えて、スムーズな楽曲制作を習得。 ・メロディ、リズム、ハーモニーを元とする基礎編曲の理解。 ・ドラム、ベース、ピアノ、ストリングスなどのMIDIノート打ち込みを習得する。 ・ボーカロイドの操作を習得。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	DAWについて、Logicについて。 Logicの操作方法、基礎的な使用方法について。
【前期】 4～7回目	Drumパターンの打ち込み(MIDIノート)、クオンタイズについて。 Drum Fillの作り方、打楽器について。
【前期】 8～10回目	鍵盤楽器の打ち込み。アルペジオ、コード打ち込みについて。
【前期】 11～13回目	ベースの打ち込み。ベースのパターンについて考える。 楽曲制作① 1分程度の楽曲制作。
【前期】 14～17回目	楽曲制作①提出、フィードバック。 メロディの打ち込みについて。 ミキシング・マスタリングについて①
【後期】 18～20回目	ストリングス・ブラス系の打ち込みについて。 弦楽器・管楽器の種類についての理解。
【後期】 21～24回目	シンセサイザーの使い方、打ち込みについて。 オートメーション、音色の作り方。
【後期】 25～27回目	楽曲制作② 3分程度の楽曲作成。 ボーカロイドの使用法について。
【後期】 28～30回目	楽曲制作②フィードバック。 ボーカロイドの歌わせ方。ミキシング、マスタリングについて②
【後期】 31～34回目	コンプ・EQ・リバーブ等の使用方法について理解を深める。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	楽曲制作は音楽業界の中でも中心的な存在です。最初は難しく感じるとは思いますが、苦手意識を持たずフラットな気持ちでDAWの様々な使い方を勉強しましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	コーラスライン I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	これまでCMへのオリジナルソングの提供、ラジオ、ドキュメンタリー番組等に出演。その後渡米し現地ミュージシャンとセッションを重ねる。福岡、東京にて音楽イベントに多数出演。動画制作への楽曲提供なども行う。ピアノでの受賞経験も多数。メジャーアーティストへのレッスン提供や、後進の育成にも励みデビューした生徒も多数。				
授業概要	この授業では学生達が声楽技術を身につけハーモニーを理解し、コーラスワークに対する技術・知識の習得を行います。複数人でメロディーを歌唱する際の耳と発声を磨き、アンサンブル歌唱のスキルを向上させます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーモニーの概念を理解し、他歌手との調和を築く為の技術を習得。 ・音を聴き分ける能力を養い、和音や度数を理解してハーモニーを歌唱出来るようになる。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ユニゾン・スケール・3度ハモリからのコードトレーニング(M・m・sus4) 課題曲①邦楽パート音入れ
【前期】 4～7回目	ユニゾン・スケール・5度からのコードトレーニング(aug・dim・add9)・楽曲Keyチェンジ対応 課題曲①
【前期】 8～10回目	オクターブ発声・楽曲分析(小節・ブレス・アクセント・ポルタメント)・コードトレーニング(△7・7) 課題曲②洋楽パート音入れ
【前期】 11～13回目	母音・子音歌唱・ペア練習 トランスポーズ対応トレーニング・8ビート・16ビート 課題曲②
【前期】 14～17回目	前期テスト対策。 ■前期試験:発声に関する用語、仕組み、ハーモニー、リズムの到達度の確認。
【後期】 18～20回目	イントネーション・コード進行の理解～アドリブ・フェイク練習 課題曲③パート音入れ
【後期】 21～24回目	シャッフル・イーブン・グループ チェスト・ミドル・ヘッドヴォイス確認 課題曲③
【後期】 25～27回目	楽曲の1フレーズを3拍子・4拍子で歌唱・スケール・コードトレーニング 課題曲④発音
【後期】 28～30回目	それぞれの表現・抑揚と発音 歌いまわしと音の重なり 課題曲④
【後期】 31～34回目	通年のまとめ。発声、即興、ハーモニー、リズムの到達度の確認。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声に関する用語、仕組み/発声 / リズム」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ソロパフォーマンスでは習得出来ないヴォーカルグループで作り出すハーモニーを体感していきます。同時にGt.Key.Baで演奏するコードを声で体感していきます。リードボーカルでの役割と支えになるコーラスの役割を経験し、グループでの表現やパフォーマンスを学んでいきましょう！
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習 I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズ I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出さる。2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
授業概要	<p>バラードやアップテンポといったテーマに合わせて自分で選んだ曲を歌い、講師や他生徒からの感想やアドバイスをもらいながら磨いていく授業です。</p>				
到達目標	<p>自分が歌うだけでなく、他者の歌唱を聞いて、見て、【音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力(表情や身振り手振り、パフォーマンス)】の4つの観点から観察、考察します。 【歌う】【聞く】【考える】のサイクルで授業を進めます。他者の歌を客観的に分析することで自身の歌唱とも向き合い、技術を磨いていきます。また、同じ曲を数週間歌い続けることにより楽曲への理解を深め、より表現力豊かな歌唱を目指します。</p> <p>歌唱力だけを磨くだけでなく、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」ステージングを意識した歌唱ができるようになる。□自身の歌唱の魅力に気づき、活かすことができる。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【自由曲①(バラード)】ロングトーンなど、歌唱の魅力が全面に出るバラードを歌います。
【前期】 4～7回目	【自由曲②(アップテンポ)】リズム感を意識した歌唱を習得します。
【前期】 8～10回目	【自由曲③(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【前期】 11～13回目	【自由曲④(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【前期】 14～17回目	【自由曲①～④より選択】これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことにより楽曲、歌唱への理解を深め、より自分の魅力を引き出す歌唱を目指します。 ■前期試験:課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【自由曲⑤(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 21～24回目	【自由曲⑥(楽器とのデュオ)】ギターもしくはピアノ単体の演奏とともに歌唱します。ドラムやベースなどが入ったカラオケ音源の華やかな演奏と対極な、歌と楽器のみのデュオ演奏の歌唱アプローチ法を考察します。
【後期】 25～27回目	【自由曲⑦(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 28～30回目	【自由曲⑧(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 31～34回目	【自由曲①～⑧より選択】これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことにより楽曲、歌唱への理解を深め、より自分の魅力を引き出す歌唱を目指します。 ■後期試験:課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ボーカリストとして様々なジャンルが歌えるようになることは必須です。講師や他生徒からのフィードバックを聞きながら自分の魅力や武器を見つけ、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」「職業ミュージシャンとして即戦力になる」といったより実践的な歌唱を目指します。また、他者と歌を客観的に分析することにより、自分の歌唱を磨くためのヒントが見つかることも多くあります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要					
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルを学ぶ。 ・曲の理解、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方など ・楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分け、音楽の楽しみ方を学び、 ・バンドとして一つの音を奏で、パフォーマンスも含めアンサンブルにつなげる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 4～7回目	2曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 8～10回目	3曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間
【前期】 14～17回目	4曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験:課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 21～24回目	6曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 25～27回目	7曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 28～30回目	8曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 後期4曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【後期】 31～34回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験:課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティーを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを上達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人が奏でる音楽・アンサンブルに繋げていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要					
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。 ※アンサンブル応用 I の二科目目として実施					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルを学ぶ。 ・曲の理解、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方など ・楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分け、音楽の楽しみ方を学び、 ・バンドとして一つの音を奏で、パフォーマンスも含めアンサンブルにつなげる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 4～7回目	2曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 8～10回目	3曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間
【前期】 14～17回目	4曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験:課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 21～24回目	6曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 25～27回目	7曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 28～30回目	8曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 後期4曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【後期】 31～34回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験:課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティーを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを上達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人が奏でる音楽・アンサンブルに繋げていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルスタイル I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル発展 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要					
様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの歌唱へ取り込んでいきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリズム感、グルーブ感を習得し、歌唱へ反映させていく力を身に付けます。 ・歌唱するのに必要なリズム感を養い、自身の持つ声をより向上させ、様々な共鳴・声色を習得します。 ・多様なジャンルのルーツミュージックを理解し、ノリやアクセントの付け方の幅を広げます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	課題曲①【ROCK】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 4～7回目	課題曲②【R&B】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 8～10回目	課題曲③【レゲイ】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 11～13回目	課題曲④【ミクスチャー】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 14～17回目	トータルチェック(これまでの課題曲で培った「発声・リズム・表現力・ポイント」を確認する) ■前期試験:課題曲の歌唱により「音程/リズム/ダイナミクス/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	課題曲⑤【ブルース】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 21～24回目	課題曲⑥【FUNK】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 25～27回目	課題曲⑦【ソウル】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 28～30回目	課題曲⑧【JAZZ】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 31～34回目	トータルチェック(これまでの課題曲で培った「リズム・グルーブ・表現力・ポイント」を確認する) ■後期試験:課題曲の歌唱により「リズム/ダイナミクス/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/ダイナミクス/表現力」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ボーカリストとして様々なジャンルが歌えるようになることは必須です。講師や他生徒からのフィードバックを聞きながら自分の魅力や武器を見つけ、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」「職業ミュージシャンとして即戦力になる」といったより実践的な歌唱を目指します。また、他者と歌を客観的に分析することにより、自分の歌唱を磨くためのヒントが見つかることも多くあります。
備考	